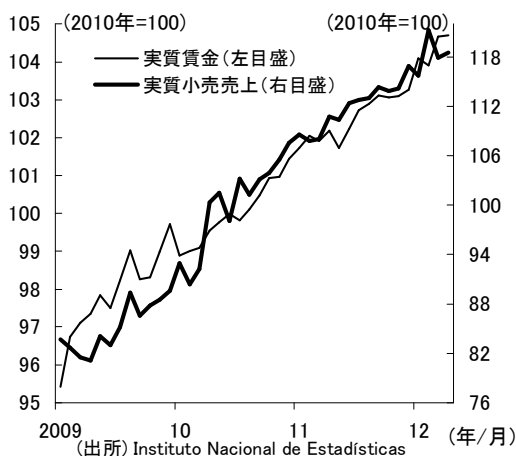




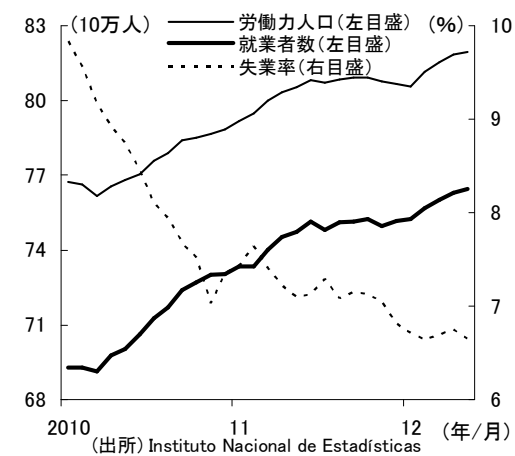
盛り上がるチリ経済 ～ 進む素原材料依存からの脱却 ～

- (1) 従来、チリは豊かな農鉱業資源に立脚した消費主導経済。リーマン・ショック直前の2007～08年でも実質3～4%の着実な成長軌道。しかし昨年秋以降、成長ペース加速。前期比年率でみると、昨年7～9月期の3.7%を底に10～12月期4.5%。本年1～3月期には5.6%へ。まず消費の増勢加速が原動力。実質小売売上は昨春から次第に増勢鈍化の兆しがみられたものの、昨年末から再び増勢加速（図表1）。内訳をみると、衣類履物や医薬化粧品から白物家電家具まで、値上がりしたガソリンおよび自動車を除くと、耐久財と非耐久財を問わず、力強い増勢に。
- (2) 消費拡大は所得雇用環境の改善。まず実質賃金はリーマン・ショック以降、ほぼ一貫して増加（図表1）。一方、雇用情勢は本年入り後、再び好転へ（図表2）。昨年半ば以降、就業者数が頭打ちに（図表2）。雇用環境の変調を受けて昨年末には労働力人口が漸減。しかし本年に入り、再び就業者数が力強い増勢に。労働力人口も増加に転じ失業率は低下へ。本年5月は季調済みで6.7%と過去最低水準に。労働力率は一段と上昇し6割超え。労働需給の逼迫は賃金上昇を通じて消費押し上げに作用。
- (3) 分野別にみると、就業者数増は製造業が牽引役。そこで製造業売上高と鉱工業生産をみると、昨春来の弱含みから昨年末以降、再びハイペースの増勢へ（図表3）。生産は今春、リーマン・ショック以前のピークを凌駕し既往最高を更新。メインエンジンは金属加工業。農水産収穫物の加工や鉱業採掘物の精錬など従来型製造業の寄与は限定的。産業・雇用の高度化が着実に進展。
- (4) 外資流入が貢献。09年秋以降、高水準の対内直接投資が持続。さらに本年入り後、証券投資が再び盛り上がり。メキシコ、コロンビア、ペルーと先月、合意した太平洋同盟創設で一段と魅力増大。近年、周辺各国との関係深化（図表4）。投資も加わり、さらに成長加速へ。

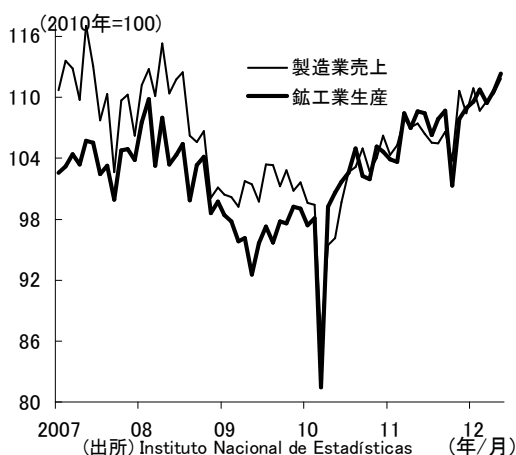
（図表1）チリの実質賃金と実質小売売上（季調済）



（図表2）労働力人口、就業者数と失業率（季調済）



（図表3）製造業売上高と鉱工業生産（季調済）



（図表4）主要国別直接投資実行額

